

会員数(56・8現在)

逗子地区 152名

葉山地区 257名

大船地区 58名

合計 467名

吟道月報

日本詩吟学院 認可
神奈川碩心会 発行

56・8月
第109号

発行者

根岸 岳萃
編 集
中村 愛岳
杉山 雪風

思ハつくまよ

大船A支部

松

浦

城

風

つれづれなるままに、日暮し硯
対^まひて心に映りゆくよしなれど
とを、そこはかどなく書きつくれ
ば、あやれうこそ、物狂ほれけれ
；これは兼行法師の徒然草の書き
出しですが、昔時のようにのんび
りしてゐては生活がでない昨日
です。勤務先で忙しいのはやむを
得ないとしても安寧であるべき家
庭にあつても煩わしい世の中では
ありませんか。「忙中閑あり」と
のんきな事をいつていたひには横
つ面を張り倒されるかも！レカレ
私達吟道を嗜む者はこれ幸いなる
かな、週に一度は何もかも忘れて
吟ずる事に熱中できる喜びがあり
ます。こう書くとまことに「カツ

コイイ」と云われはしなへかといす
気になります。
私のはじめに詩吟を耳にした記憶
は今でもはつきりしてゐます。それ
は鎌倉中学(現鎌倉学園)で漢文の
時間に高木先生が朱喜作の偶成り少
年老い易く；を吟じてくれた事です。
この先生の時間のたびに吟詠をせが
みました。
その後就職にかまけ、すっかり忘
れてしました。時移つて昭和十七
八年の戦争^{とげなわ}の頃、出征兵士の壮行
会で「見島高德」「金州城」「本能
寺」等を、同席して聞くようになり
私も忘れていた吟を思い出し、酔に
まかせて吟ずるよゝに奪りました。
勿論自己流でした。当時は天下一と

自負していたもので今にして顧みれば汗顔の至りです。やがて昭和十八年十二月二十日、自身も甲府連隊に入営としま、その準備期間中職場の同僚の田中さんという人に「鎌倉即時」金子堅太郎」を職場の屋上で放り込んで入隊しました。

昭和十九年三月十日、中国大陸河南省鄭州旅団本部を出発、南陽城に到着、警備のため歩哨勤務中に附近の無人家屋から日本の婦人倶楽部が何冊も見つかり、懐かしく頁をめくっているうちに、「楓橋夜泊」張継が目にとまり歩哨に立ちながら城壁の真下を流れる河に向ってくちみずさみ、また思いつくままにでたらめな詩をつくってひとり竊に悦に入っていたことを思い出します。

そして終戦、天津を經由、奉天（現？）でソ聯軍に武装解除されシベリヤのイリクーツク牧容所を經由、ナホトカに至る間、飢えと厳寒に耐え、故郷を偲び断腸の思いでした。四月の初旬頃ナホトカで乗船の順を待ちまされたがこの待つことのどんなに辛かったことか！

今にして思えばその待つことの尊さが身に沁

みます。一時は帰れずと自暴自棄の淵に立ち

思いつめて知らぬ間に眠る夜もありました。

雨降らば肌は冷たくナホトカの

街も幕舎も人立ち濡れて

風吹きてあこがれ船出の音づれば

あわれ瘦せる頬に冷たき

と乗船を待ち焦がれ

南向く航に白く波立ちて

我躍り行かん懐レの海

まだ見えぬ彼の方に黒き影

四年を越ゆる懐しの地

岸近く青き波間に海藻の

漂つ上を小鳥白く舞う

と米山丸（交換船）船上に歓喜し昭和二十ニ

年四月末舞鶴港に上陸しました。あれからも

三十四年も過ぎました。現在の平和を汲々

と思ひ、何年々、でもすぐに元に戻ってしまひ先

生方に申訳なハと思ひつつも楽しみの吟道で

す。

◎秋季審査会のおしらせ

許証部

◇とき：9月20日(日) 9時40分より受付開始

(午前の部・10時に同時開始)

初段……………体育館会議室

二段……………図書館ホール控室

初伝……………社会教育会館会議室

四段……………図書館ホール

(午後の部・1時に同時開始)

五段……………社会教育会館会議室

六段、奥伝、準師範……………図書館ホール

◇右の通り今回から四会場で行う事になり、

講評は午前の部終了後と午後の部終了後の

二回行われます。

◇査定料500円は支部毎にとりまとめ、当日迄

に許証部、中村へ納入して下さい。

◇許証料(残月号記載)は9月30日迄に支部毎

にとりまとめ、許証部、中村又は広瀬翔風

さん宅へ納入して下さい。

◎受付票について

許証部

審査当日、受付票を提出していただきますが
これは許証申請書作成のための重要な資料で
すので、正確に記入して下さい。

◇氏名：時により、カナ書、ひらがな、漢字
と変る方がありますが、必ず正確な
氏名を記入して下さい。

◇雅号：初伝、中伝、奥伝と伝位を受ける方
は希望雅号を忘れずに記入のこと。
◇年令：今回は十月一日付の満年令を記入し
て下さい。毎回間違ハが多く大変困
っております。他に洩らしたり発表
はいたしませんので正確な年令を記
入して下さい。

◇希望課題：課題吟についてはなてまえとしてど
れが出てよいように勉強すべきで
すが、一応希望課題を記入して下さ
い。奥伝以上は審査員が直接指定し
ます。

つれづれに



ペンを持ち窓越しにふと夜空を

みると何と月の美しハ事；たしか昨夜
が旧歴七月十五夜の満月、盆の月；夏休み
の気分が埋らないでいたのであるが、昨日あ
たりから急に涼しくなりようやくペンを持っ
た気がした。

とは何とものさして何を書こうか；つれづ
れなるままに書くことにしよう。広報部をひ
きつけて早々三年半；いひわけめきますか私
の場合、吟と舞の二筋道です。この月報の
編集もよくもまあと思ふ位ゆきあたりバッタ
リ式で埋めてきたものだと思ひます。

このところ草枕、徒然草などの一節が例句
として文中に出てきました。このような場
合には原文に忠実でなくてとは、私も原本を
ひっぱり出して字句の間違ひなど訂正させて

いたよき、自分自身の勉強にもなります。役
得とハハましようか
女編集者を看板にして、やさしく読みやす
くをモットーにこれからもやっつけてゆきたいと
思っております。皆様からの投稿がおります
と非常にたすかるのです。
(愛 岳)

(一人 △△)

(二色B支部) 飯島よし 横須賀市衣笠栄町三二八

(電) ○四六八一 521 五四三三

(銀詠支部) 網木友江 逗子市山ノ根三十一二

○四六八一 731 五七三一

(逗子B支部) 丸山ハツ 逗子市久木六一六十二

(退 △△)

222 加藤珠山 269 佐藤牧泉 (二色B) 菊池律子

(堀) 飯田あ子 (滝) 鈴木達雄